

\* ご使用の際は、電子化された添付文書をよくお読みください

## C反応性蛋白キット

## CRP-L オート「TBA」

## 【一般的な注意】

1. 本品は、体外診断用であり、それ以外の目的に使用しないでください。
2. 診断は他の関連する検査結果や臨床症状等に基づいて総合的に判断してください。
- \* 3. 電子化された添付文書以外の使用方法については、測定値の信頼性を保証致しません。
- \* 4. 使用する機器の電子化された添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用してください。

## 【形状・構造等(キットの構成)】

1. 緩衝液 (R-1)
2. ラテックス浮遊液 (R-2)  
抗ヒトCRPポリクローナル抗体(ウサギ)結合ラテックス

## 【使用目的】

血清又は血漿中のC反応性蛋白(CRP)の測定

## 【測定原理】

抗CRP抗体を結合させたラテックス粒子と試料を反応させると、試料中のCRPとラテックス粒子に結合した抗CRP抗体が抗原抗体反応を起こし、ラテックス粒子が凝集します。この凝集反応は、試料中のCRP濃度に応じた吸光度変化量を与えますので、既知濃度の標準を用いて作成した検量線から試料中のCRP濃度を求めます<sup>1) 2)</sup>。

## 【操作上の注意】

1. 測定試料の性質、採取法
  - 1) 検体は、血清又は血漿を使用します。
  - 2) 血清を採取する場合は、血液が完全に凝固した後遠心分離してください。
  - 3) 血漿を採取する場合は、抗凝固剤としてヘパリン、EDTA又はクエン酸ナトリウムを使用してください。
  - 4) 採取後の検体は速やかに測定してください。
  - 5) 採血管によっては正確な値が得られない場合があります。あらかじめ影響のないことを確認の上使用してください。
2. 妨害物質・妨害薬剤
 

ヘモグロビンは500mg/dL、ビリルビンは30mg/dL、乳びはイントラファット<sup>®</sup>注10%を添加した場合5vol%まで、測定値に影響は見られませんでした。

## 【用法・用量(操作方法)】

1. 試薬の調製
 

緩衝液(R-1)：そのまま使用します。

ラテックス浮遊液(R-2)：そのまま使用します。
2. 測定操作
 

自動分析装置の操作法に従って、指定のパラメータを入力して測定を行います。

(測定条件の例)

試料	：	3.0 $\mu$ L
R-1	：	150 $\mu$ L
R-2	：	150 $\mu$ L
波長	：	572nm

自動分析装置では、指定のパラメータに従い試料及びR-1、R-2が自動的に採取され、反応管内に順次加えられます。反応管内に生じた反応は吸光度で測定されます。あらかじめ作成された検量線と指定の演算法により吸光度から測定値が算出されます。

指定のパラメータについては問い合わせ先まで請求してください。  
検量線を作成する際は、別売のCRP標準液「TBA」Latex用を使用してください。

## 【測定結果の判定法】

各検査施設で基準範囲を設定することが推奨されます。  
一般的な参考基準範囲として、以下の文献報告があります。  
参考基準範囲<sup>3)</sup> 0.3mg/dL以下

## 【判定上の注意】

- 1) 検体によっては、まれに目的成分以外との反応や反応の妨害等により正しい結果が得られない場合があります。測定結果に疑問がある場合は、再検査や希釈試験により確認してください。
- 2) 非常に濃度の高い検体の場合、試薬性能の測定範囲の上限を超えることがあります。その際は、検体を適宜生理食塩液で希釈した後、再度測定してください。

## 【臨床的意義】

CRPは、肺炎球菌のC多糖体と沈降反応を示す蛋白として、Tillettらによって発見され、当初はC多糖体に対する特異抗体と考えられましたが、その後、肺炎球菌感染症に限らず、他の多くの炎症性疾患や組織崩壊性疾患においても血中に出現する非特異的な急性相反応性血漿蛋白の一種であることが明らかになりました。また、新生児においてCRP濃度を経時的に求めることにより、きわめて早期に新生児感染症の診断が可能であるといわれています。  
CRP濃度の測定は、疾患の活動性、重症度、経過、予後、治療効果などの判定や、新生児感染症の客観的な判断に有効な指標となります<sup>4) 5) 6) 7)</sup>。

## 【性能】

1. 性能
  - 1) 感度
 

生理食塩液とCRP濃度0.01mg/dLの管理用試料を10回同時に測定したとき、各々の平均値±2SDは重なりません。
  - 2) 正確性
 

既知濃度の管理用試料を測定するとき、既知濃度の±10%以内です。
  - 3) 同時再現性
 

管理用試料を10回同時に測定するとき、その変動係数(CV)値は、10%以下です。
  - 4) 測定範囲
 

測定範囲は、0.01~32mg/dLです。
2. 較正用の基準物質(標準物質)
 

IFCC血清CRP国際標準品(I RMM)

### 【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上(危険防止)の注意
  - 1) 試料(検体)はH I V, H B V, H C V等の感染の恐があるものとして取扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋、マスクなどを着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。
  - 2) 本品には、アジ化ナトリウムが含まれておりますので、誤って目や口に入ったり皮膚に付着した場合には水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。
2. 使用上の注意
  - 1) 本品は、記載された操作法に従って使用してください。記載された操作法及び使用目的以外での使用については、測定値の信頼性を保証致しかねます。
  - 2) 自動分析装置に使用する場合、使用の前に当該自動分析装置の取扱説明書を熟読し、詳細は機器メーカーにお問い合わせください。また、自動分析装置は使用前に洗浄するなど、十分に調整してください。なお、測定条件(パラメータ)の詳細については下記の問い合わせ先までお問い合わせください。
  - 3) 本品は、指定された条件で保管し、使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
  - 4) 製造番号の異なる試薬を組み合わせて使用しないでください。  
また、同一製造番号の試薬であっても試薬を注ぎ足すことは行わないでください。
  - 5) 開封後の試薬については汚染等に注意し、十分な精度管理のもとで使用してください。なお、管理用試料の値が精度管理範囲を超えた場合は、検量線を作成し直す等の処置を行ってください。
3. 廃棄上の注意
  - 1) 試料(検体)、使用済みの容器及び検査に使用したすべての器具類は、次のいずれかの方法で滅菌処理を行ってください。
    - (1) 最終濃度3.5vol%グルタルアルデヒド溶液に、30分間以上浸漬する。
    - (2) 0.5w/v%次亜塩素酸ナトリウム溶液(有効塩素5000ppm)に、1時間以上浸漬する。
    - (3) 121°Cで、20分間以上高圧蒸気滅菌をする。
  - 2) 本品は、アジ化ナトリウムを0.09w/v%含んでいます。アジ化ナトリウムは、鉛や銅と反応して爆発性のある重金属アジ化物を生成することができますので、大量の水とともに廃棄してください。
  - 3) 試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従って処理してください。

### 【貯蔵方法・有効期間】

- 1) 貯蔵方法 2~10°Cに保存
- 2) 有効期間 1年  
(外箱、ラベルに表示の使用期限内に使用してください。)

### 【包装単位】

C R P-L オート「T B A」

コードNo.	包 装		
820410	緩衝液	R-1	50mL×1
	ラテックス浮遊液	R-2	50mL×1
831317	緩衝液	R-1	50mL×1
	ラテックス浮遊液	R-2	50mL×1

別売品

C R P標準液「T B A」 Latex用

コードNo.	包 装		
841507	C R P標準液	5濃度	2mL×5
841606	C R P標準液	7濃度	2mL×7

### 【主要文献】

- 1) Galvin JP, et al. :Particle enhanced photometric immunoassay systems, Clin. Lab. Assays (Pap. Annu. Clin. Lab. Assays Conf.), 4th, 73(1983).
- 2) Singer JM, et al. :The latex fixation test. I. Application to the serologic diagnosis of rheumatoid arthritis, Amer. J. Med., 21, 888(1956).
- 3) 大谷英樹ら : C 反応性蛋白(C R P), 日本臨牀, 748, 197(1999).
- 4) Tillett WS, et al. :Serological reactions in pneumonia with a non-protein somatic fraction of pneumococcus, J. Exp. Med., 52, 561(1930).
- 5) 大谷英樹 : CRP微量測定の臨床的意義, 臨床検査, 32(2), 173(1988).
- 6) 西田 陽 : C-reactive proteinの微量定量とその病態変動に関する研究 第1報 定量法と正常値について, 北里医学, 16(6), 393(1986).
- 7) 西田 陽 : C-reactive proteinの微量定量とその病態変動に関する研究 第2報 新生児感染症の早期診断法について, 北里医学, 16(6), 402(1986).

### \*\*【問い合わせ先】

キヤノンメディカルシステムズ株式会社  
営業本部 検体検査システム営業部  
〒212-0015 神奈川県川崎市幸区柳町70-1  
TEL : 044-520-2074